

児童発達支援センターで ドッグセラピー

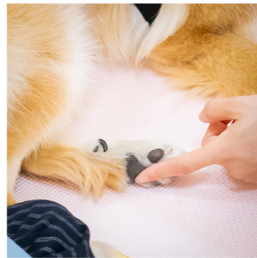
～子どもたちの成長と笑顔が広がるふれあいの時間～



今年度2回目となるドッグセラピーが、児童発達支援センターで開催されました。
子どもたちはこの日を心待ちにしており、犬たちの登場とともに、会場には笑顔と温かな雰囲気が広がりました。

緊張から笑顔へ 観察力と優しさが育まれる時間

活動では、犬の歯や肉球など細かな部分に興味を示し、じっくりと観察する様子が目立ちました。



【職員のコメント】

「前回よりも犬への接し方が穏やかになっていて、
子どもたちの心の変化や成長が感じられました。」

継続的な取り組みの中で見えてきた変化が印象的だったようです。



また、子どもたちはフープを手に持ち、
その輪を犬がジャンプして飛び越える体験や、
犬が自分の体の上を飛ぶ体験にも挑戦！



スリルを感じながらも歓声を上げて
見守る子どもたちの姿は
真剣そのもので、犬との信頼関係が
うかがえるひとときでした。



体験の後には、「ありがとう」と優しく声をかけながらおやつを手渡し、達成感や喜びを犬と共に分かち合う様子が見られました。

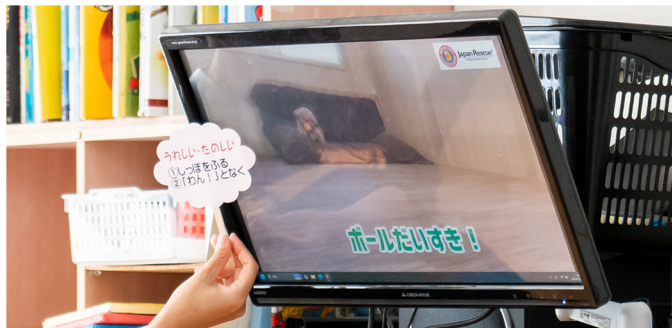
こうした体を使ったダイナミックな交流は、子どもたちにとって心に残る貴重な経験となったようです。

先生のエピソードに刻まれた、^{きざ}成長の足跡

前回、犬を「怖い」と感じていた子に対して、先生が子どもの心に届くようなさまざまな工夫や手作り教材を用いて関わりを重ねたところ、当日は、自ら犬の背中に手を伸ばし「ふわふわだね」と笑顔を見せてくれました。

また、「怒り」「怖い」「嬉しい」「楽しい」といった犬の感情を動画や表情を通じて学び、感情理解や他者への共感を育む学習も実施されています。

触れ合いで活かされるよう、日頃、力加減が難しい子どもに対して新聞紙を使って優しく触れる練習を行うなど、一人ひとりに寄り添った支援が行われています。



人と動物の共生社会への第一歩

しいのみ学園 高井園長のコメント

「今の子どもたちに“ワンヘルス”という言葉の理解は難しいかもしれませんが、犬を『おもちゃ』ではなく、『相手』として接する経験は、将来他者と価値を共有し、命や健康、痛みといったものを大切にする心につながっていくはずです。私たちは、この活動を通じて、かけがえのない経験をいただいています。」



プライバシー保護のため画像を加工しています

犬とのふれあいは、子どもたちにとって観察力や自制心、そして他者との関わり方を自然に学ぶ貴重な機会となっています。先生たちも犬との関わりを通して、子どもたちと共に学びを深めており、その姿勢が活動全体をあたたく包んでいます。

プライバシー保護のため画像を加工しています



犬はおもちゃではなく、
大切な“相手”

そんな価値観を育むこのドッグセラピーは、人と動物が共に生きる社会を目指す小さな一歩として、今後の継続が期待されています。